



多久市【佐賀県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：19,466人 ■面積：97km²
■担当課：多久市教育委員会教育振興課（平成30年3月現在）



孔子廟「多久聖廟」の継承と、文教重視の歴史を基に郷土学習と徳育を併せた活動「ふるさと多久学」の視点から、市域の歴史文化の把握と保存活用に繋げる。また「ふるさと多久学」のなかで郷土の特色を表し、関心が高いテーマや地域を、関連文化財群・保存活用区域に設定し重点的に整備することで、特色をより明確にしながらいま周辺地域を含めた魅力向上を図る。

5 歴史文化を表す つのキーワード

石器原産地、中近世領主、郷学と孔子廟、
漢籍・古文書、炭鉱遺産

課題

- ・域内文化財の総合的把握の継続
- ・歴史的建造物、炭鉱跡施設の保存
- ・文化財が有する様々な価値の把握
- ・文化財に関わる自然環境の把握

保存活用方針

- ・文化財を総合的に把握し、新たな価値を見つける
- ・文化財を守り、継承するための基盤を整備する

保存活用のための取り組み

地域・学校・行政の連携を推進

「ふるさと多久学」の視点から、市内の様々な文化財を保護するために市内全域での継続的な把握を進める。その達成には地域からの保護推進や、学校の体験学習などを通じた情報収集等を授業に取り込み、行政が行なう文化財パトロールとも連携を図っていく。



担い手情報の整備と担い手育成・協働の場づくり

文化財そのものの情報の他に、文化財を保存・継承している担い手や活動内容・成果などの情報を把握・整理し、データベース化を図る。また担い手の相互交流・連携により課題やより深いテーマが見出せるほか、支援や協力依頼ができる協働育成の場を設置する。



文化財の掘り起しと計画的な指定・登録

広く文化財を掘り起し、未指定文化財等の調査と指定登録を行なう。新たな価値を見出すには、市域の歴史や文化の理解をさらに深める必要があり、そのために広域的な情報収集や関連団体等との連携を図る。この過程を通じ、文化財保護の意識共有が可能となる。

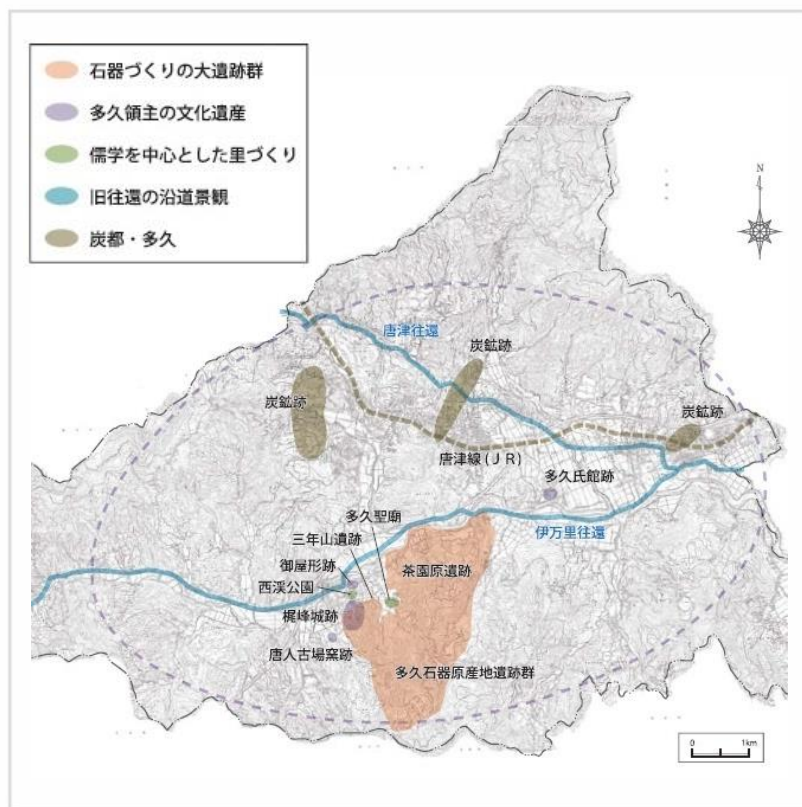


歴史文化を活用した学校教育・生涯学習の拡充

将来を担う子どもたちに、歴史文化への興味を促し文化財を引き継いでいく担い手やサポーターになってもらうため、歴史文化やその周辺環境を学ぶ教育プログラムの導入に取り組んでいく。また文化財の見守りや語りなど高齢者の生きがいを育む企画を進める。



関連文化財群



市域の歴史文化の特色・テーマとして、まず土地の自然の利用がある。古くは原始における石器石材の利用、他に近世末～現代にかけての石炭があり、ともに供給地としての性格を有す。また市域の地理的条件に、過去九州北西域の交通の要所という面があり、その後の領主等の歴史や、文化のあり方に関わり現在にも通じている。

ストーリー

- ① 【石器づくりの大遺跡群】
- ② 【多久領主の文化遺産】
- ③ 【儒学を中心とした里づくり】
- ④ 【旧往還の沿道景観】
- ⑤ 【炭都・多久】

策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化財の保護・継承**
多様な歴史文化を顕在化させてその価値を見出し、それらの適切な保存・活用を図る指針とすることで、住民の地域への理解やコミュニティ再生のきっかけづくり、また文化の薫り高い空間の形成に寄与できる。学校教育では、郷土学習の基礎的資料として提供し授業に役立ち、担い手育成に繋がる。



別府一区の面浮立

② **観光振興**
観光部局における振興計画と連携して、歴史文化をもとに観光プラン・地域を整備していくことで、交流人口の増加が期待できる。観光の活性により地域の経済的な活性化にも繋がり、またそれにより地域自身が、より歴史文化の特色と地域の良さを成長させていくサイクルを形成することができる。



中世山城梶峰城跡

③ **まちづくり**
構想によって歴史文化の保護を広く示すことで、行政の開発部局や民間開発業者、地域住民に協力を求め、抑制を含めて歴史文化の保護を優先した開発の誘導が可能となる。また他の行政分野が進める事業との連携により、総合的なまちづくりや、国の諸制度等に取り組むための体制構築が可能となる。



本多久郭内遺跡